

令和2年5月26日(火) 校長先生のお話

向山小の皆さん、お元気ですか。この頃の天気は気まぐれですね。初夏のような暑い日もあれば、肌寒い日もあり、体調の管理が難しいです。校長先生も、長そでを着たり、半そでを着たりして体温調節をしています。熱中症が少し心配な季節にもなってきましたので、家の中の温度の調節にも気を付けて生活してくださいね。

6月1日から、学校への登校ができそうです。先生たちも頑張って準備をしています。皆さんが安全に登校できるようにしていきますので、生活のリズムを朝型に整えてくださいね。

さて、今日は、オーストラリアに住む8才の少年のお話です。

その男の子の名前は、「コロナ・デ・フリース」くんといいます。

デ・フリースくんは、「コロナ」という名前のために、学校で「コロナウイルス」と呼ばれて、いじめられてしまったそうです。「コロナ」という自分の名前が大好きなのに、「コロナウイルス」と呼ばれるたびにとても悲しくなったそうです。

そんな悲しい思いをしていたデ・フリースくんは、アメリカの俳優トム・ハンクスさんにお手紙を書きました。トム・ハンクスさんは、オーストラリアで映画の撮影中に新型コロナウイルスにかかってしまい、治療していたのです。そして、デ・フリースくんは、トム・ハンクスさんのファンだったのです。

トム・ハンクスさんは、デ・フリースくんからお見舞いのお手紙を受け取って大変喜びました。そして、デ・フリースくんに、手紙の返事を書きました。

ハンクスさんは、「大好きな友達のコロナへ」と書き、「きみの手紙で僕と妻は素晴らしい気持ちになっ

た！ 素敵な友達になってくれてありがとう。気分が落ち込んでいる時に励ましてくれるのが友達だ。」と書いたそうです。

また、「きみは僕の知り合いの中で唯一、コロナという名前を持っている。指輪、太陽、そして王冠という意味だ。」と励ましたそうです。

皆さんは、このお話を聞いて、どう思いましたか。

デ・フリースくんの気持ちになって想像してみてください。自分の大切にしている名前を使っていじめられたら、どんな気持ちがするでしょう。うれしい人は絶対にいないと思います。校長先生は、人の名前を使っていじめるなんて許せないです。

デ・フリースくんは、トム・ハンクスさんというすばらしい俳優さんに勇気をもらいました。そうです。いじめは、自分一人では解決できないことがあるけれども、周りの人の協力で、解決できることがきっとあるのです。

コロナ・デ・フリースくんのお話は、私たちの学校生活の中で、いじめを「しない・させない・みのがさない」ための大きなヒントになると思いました。

お話は、これで終わりです。

昨日、今週の課題や算数プリントをホームページにアップしました。午前中に学習を進めるように頑張ってください。

また、担任の先生たちや専科の先生たちが、いろいろなメッセージを送っています。毎日、ホームページをチェックしてくださいね。

では、6月から皆さんにお会いできることを楽しみにしています。